

Press Release

報道関係者各位

平成 21年 6 月 1 日

株式会社ユビテック

(大証 HC 6662)

**ユビテック グリーン東大工学部プロジェクト第1回総会にて  
BX-Office実証実験の第一次成果を報告**

ユビキタスプラットフォーム事業の創生を目指す株式会社ユビテック(東京都品川区、代表取締役社長 荻野 司、以下「ユビテック」)は、グリーン東大工学部プロジェクト第1回総会にて、BX-Office実証実験の第一次成果を報告しました。

「グリーン東大工学部プロジェクト」は、2008年6月に産官学が協力し地球環境の保全と活動環境の改善を目指すことを目的として、研究開発活動を開始しています。発足当初より、都内最大のCO<sub>2</sub>排出事業所である「東京大学本郷キャンパス工学部2号館」(以下、工学部2号館)を実証実験の場とし、最先端の省エネ・環境対策技術の統合化と評価を行い成果をあげています。本プロジェクトでは、多種多様な企業が参画し、企業の壁を超えてそれぞれの得意とする技術や製品を持ち寄り、幅広く総合的な実証実験を行っています。そして最終的には、環境・エネルギー対策に不可欠な、情報の共有・加工・利用ができる基盤を確立し、それを世界に広げ、新ビジネスの創出をゴールとしています。

現在、工学部2号館の中では、15件の実証実験が展開されており、5月26日に開催されたグリーン東大工学部プロジェクト第1回総会において、各実証実験の第1次成果が発表されました。ユビテックは、その成果の一つとして、BX-Office実証実験の報告を行いました。詳細は、次ページ以降をご参照下さい。

引き続きユビテックでは、オフィスの省エネを促進するべく、IT 技術を活用した環境負荷軽減に役立つシステムの開発を進めてまいります。

**【本件に関するお問合せ先】**

株式会社ユビテック 担当: 管理本部 総務課

電話: 03-5487-5560 FAX: 03-5487-5561

以上

## BX-Office 実証実験第一次成果報告レポート

グリーン東大工学部プロジェクト 第1回総会 ～参画企業による第一次成果報告～

5月26日(火)にグリーン東大工学部プロジェクト第1回総会が開催され、プレスカンファレンスと15件の実証実験のテクニカルサイトツアーが行われました。そこで、「東京大学本郷キャンパス工学部2号館」(以下、工学部2号館)を対象とした「ITによる省エネ」と「IT環境自身の省エネ」の両立を実証する実験の第一次成果が公表されました。

(※グリーン東大工学部プロジェクトのプレスリリース <http://www.gutp.jp/release/> もご覧下さい。)

### 1) プレスカンファレンスの模様について

プレスカンファレンスでは、江崎プロジェクト・リーダーより平成20年度「グリーン東大工学部プロジェクト」の活動報告が行われました。2008年度は技術検討及び制御環境を整備し、工学部2号館には、現在、330箇所の計測ポイントが設置され、1616の計測データが共通DBに格納されています。これまではそれぞれの設備に分散していたデータが、企業・業界の壁を越えて共通のDBに集約できたことは重要な成果です。このデータを基に今年度は省エネ効果の検証に入るとの説明がなされました。そして、台湾中華電信との協調を皮切りに世界各地と連携し、標準化活動に注力していくとの説明がなされました。



写真1：グリーン東大工学部 プレスカンファレンスの模様

## 2) テクニカルサイトツアー BX-Office 成果報告

テクニカルサイトツアーでは、工学部 2 号館の中で展開されている 15 件の実証実験を見学しながら説明が行われました。

ユビテックもツアーの中で、BX-Office 実証実験の内容と成果について報告を行いましたので、以下にご報告させていただきます。

### ◆ BX-Office (スケジューラ連携制御)

ユビテックは、BX-Office で照明用人感センサーをマルチ活用し、自動整備制御と稼働状況の見える化を実証しています。

#### 【狙い・背景】

予約されていない時間帯の勝手な施設利用や利用後に照明・空調がつけっ放しとなる「無駄」の排除が施設管理上の課題であった。

#### 【従来】

各部屋の照明や空調の稼働状況を確認する手段がなく、またそこに人が居るかどうかの把握が不可能だった。設備毎に装備するタイマー設定で既定時間に運転させる方法と、施設管理担当が見回る方法で対応してきた。

#### 【実施方法】

既設照明システムを各部屋へ拡張。照明制御機能、予約システムからの予約情報取得機能及び BACnet/WS での空調制御機能などを装備する BX-Office を導入し、自動制御と消し忘れ防止を実現する様、照明・人感センサー情報と予約情報、空調情報を統合した。

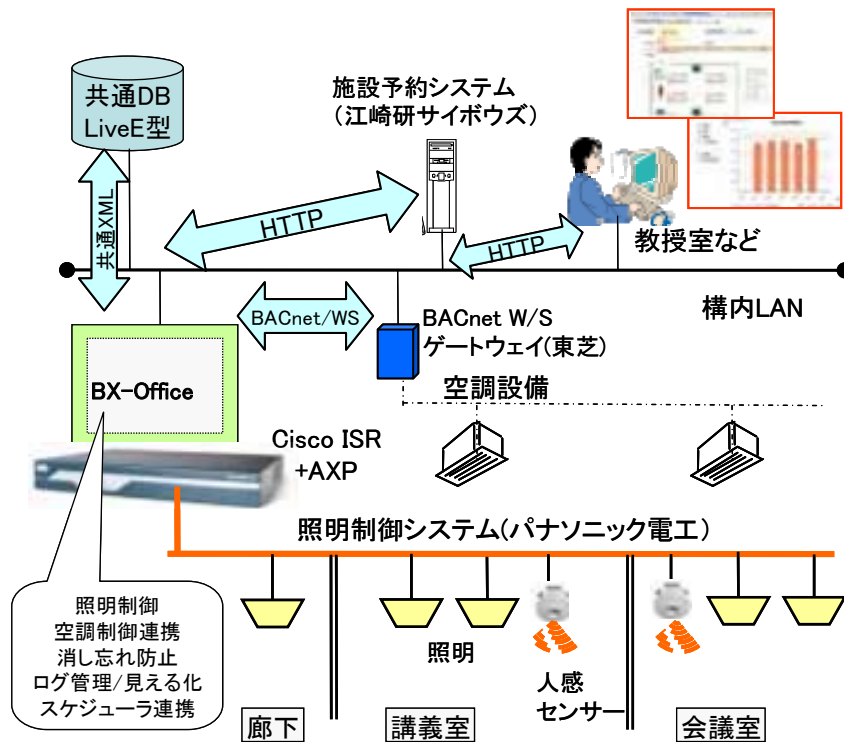


図 1 : 構成図

具体的には、人のいる／いない状態と施設予約状況による設備の有効稼働状態の見える化の実現です。ポイントは、以下3点です。

- ・ 照明用人体センサーで空調も自動制御可能にし、設備間の連携を実現。
- ・ 未予約利用通知により、未予約利用状況及び予約済未使用状況の把握が可能。
- ・ これまで共有できなかった人体センサーや照明状態のデータを1分単位で収集。

BX-Office によって、設備の稼働状況と人体センサーによる人のいる/いない状態が個別に Web で見える化され、「いつどこが使われているか」、「予約済みかどうか」、「消し忘れはないか」をリアルタイムに把握できるようになりました。また稼働状況の記録も可能です。今後の技術的課題としては、On/Off データ記録をわかりやすく見える化する手法と他システムとの各種情報共有インターフェースの定義を検討してまいります。



写真 2：テクニカルサイトツアーでの BX-Office デモの様子

省エネ運用を設計する上で、エネルギー使用状況の実態を「見える化」することは非常に重要な意味を持ちます。今後は「見える化」された計測データを基に、どこを削減すれば効果的・効率的な省エネを図ることができるかに焦点をあて、省エネに向けた課題の洗い出しと解決に向けた検討を進めてまいります。また、BX-Office と各システムを繋ぐことで各システム同士を連携させ、それぞれが計測した重要な情報同士を柔軟かつ効率よく組み合わせ、更なる付加価値をつけた情報に「見える化」していきたいと考えています。より効果的な「見える化」の実現に向けて、プロジェクトの一員として引き続き研究開発を進めてまいります。

以上